

調査事例：ハンダ付け作業員 [鉛ばく露がないことの証明]

環境・健康

A社でのハンダ付け作業員の集団としての血中鉛濃度（幾何平均値、幾何標準偏差）は、非ばく露者群と比較し差が認められません（下記表）。この結果から、A社では作業環境管理、作業管理が適切に行われていることがうかがえます。

当該被検者数が多い場合、集団として評価することにより、ばく露の程度、作業環境管理、作業管理の状況などについて、有用な情報が得られます。なお、非ばく露者でも検査対象物質が尿、血液などの生体試料中に存在する場合は、非ばく露者群との比較が必要です。

ハンダ付け作業員の血中鉛 [非ばく露者群との比較]

	ハンダ付け作業員	非ばく露者
例数	47	105
幾何平均値 (μ g/dl)	5.34	5.37
幾何標準偏差	1.39	1.35
最高値 (μ g/dl)	10	10

(鉛ハンダが、広く一般に使用されていた時期での調査結果)

kes サポート

課題	kes サポート
有害物質の体内ばく露状況の調査	生物学的モニタリング
有害物質の体外ばく露状況の調査	個人ばく露モニタリング
有害物質の体外ばく露の情報	作業環境測定
衛生診断、リスクアセスメント	作業環境測定、健康診断結果等に基づく衛生診断 リスクアセスメントの実施